

産科退院後の母子の受け入れ体制と養育力に関する調査報告書

産後うつの要因の一つに、子どものケアへの不安が挙げられている。少子化・核家族化が進み、子育て家庭の養育力や産科退院後の母子を支えてきた実家の状況が過去と比べて様変わりしているという印象が強いが、実態は定かではない。退院後の育児を安心して行っていくためには、退院直後は母が信頼できる母子の受け入れ体制が整っていることと最低限の養育力が必要である。今後の支援の必要性と規模を検討するために、現状について実態調査を行った。

I. 調査の目的

出産して産科を退院後の母子の受け入れ体制としての家庭の現状把握、相談・支援の認識、母の養育力の自己評価を把握する。

II. 対象と方法

対象：出産施設（産科医院病院・助産院）で出産後、退院前の保護者

期間：令和3年9月1日～11月30日

方法：箕面市内の病院産科2施設と箕面市内と近隣の助産院計2施設に依頼して、産科退院前の母に入力フォームQRコードとURLを記載した用紙を配布し、ネットアンケートに入力を依頼した。

用紙の配布数は合計199、回答数は43、回収率は21.1%であった。

調査項目（調査内容は報告書末に記載）

産後の母子が過ごす場所・母のケアをする人・新生児のケアをする人・信頼感・相談相手の認識・養育内容の自己評価

本調査は、箕面市立病院倫理委員会に申請され、迅速審査で承認を得た。

本調査は、箕面市教育委員会および箕面市医師会の後援を受け、箕面市民活動助成（夢の実支援金）事業の一環として行った。

Ⅲ. 結果と考察

1. 出産後、母子が過ごす場所（複数回答）

全体の集計では、自分の家が65.2%と最も多く、初めての出産時は60%が実家であったが、2人目以後は約8割が自分の家と回答した。箕面市内在住者では市外に比較し、自分の家の比率が高かった。正確に比較するデータはないが、1～2世代前は里帰りがほとんどであった印象があり、産後の様相は異なる。第2子出産後はきょうだいの関わりなど作業量は増加するので、自分の家でサポートがどの程度得られているのか検討が必要である。

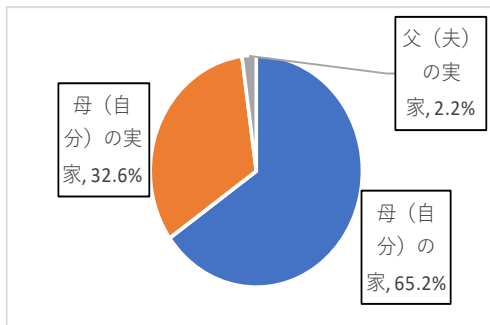


図1.産後に過ごす場所

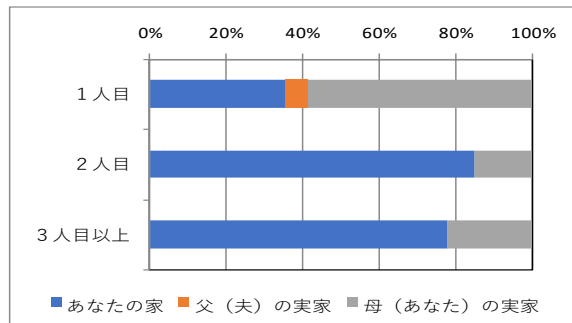


図2.産後に過ごす場所と子どもの人数

表1.産後に過ごす場所と所在地

	母（自分）の家	母（自分）の実家	父（夫）の実家	総計
箕面市以外	16	11	1	27
箕面市内	14	4	0	16
総計	30	15	1	43

2. 母の身のまわりの世話や家事の主たる担当者（複数回答）

自分の親が65.1%、夫が60.5%と多く、2人目出産後では自分の親は10.1%と低かった。全体としては、自分の親と夫の重複回答が最も多く、夫・自分の親の単数回答が同数、箕面市内で「息子」の回答が1名あった。

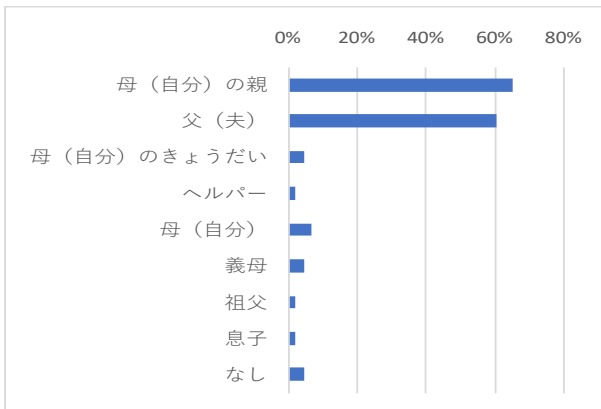


図3.母の世話や家事の担当者

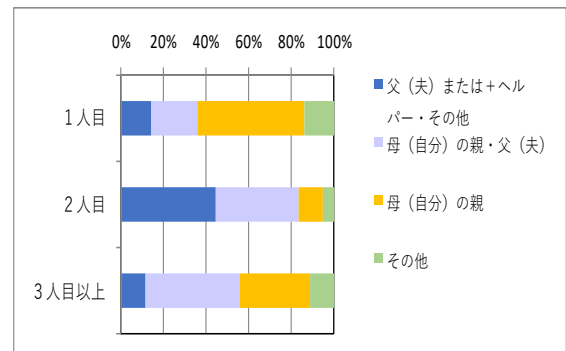


図4.母の世話や家事の担当者と子どもの人数

3. 沐浴など赤ちゃんの世話の主な担当者（複数回答）

父（夫）が55.8%と最も多く、母（自分）32.6%が自分の親25.6%より多かった。子どもの人数が多い方が、実家の親の関与が少ない傾向が認められた。産後に実家の親を頼らなくなった傾向が認められ、2. の母の世話より赤ちゃんの世話は夫と自分で行う場合が多かった。今の親世代は自分が出産するまでに赤ちゃんに接した経験のない人が大半を占めている。未経験の夫婦に対して、安心してケアできるサポート体制が求められている。

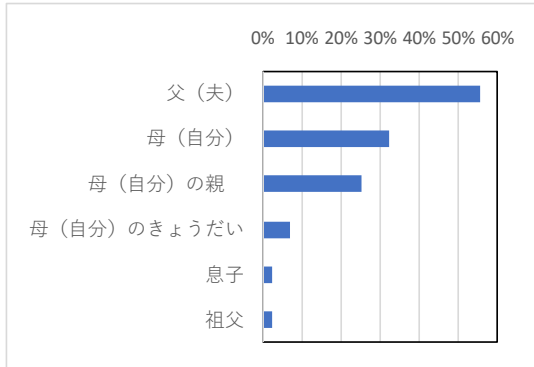


図 5. 赤ちゃんの世話の主な担当者

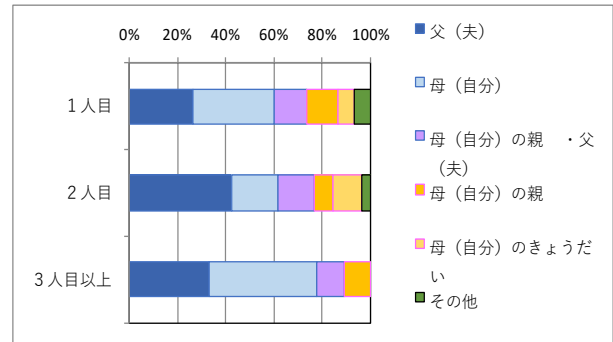


図 6. 同子どもの人数とのクロス集計

4. 産後の環境は安心して過ごせるか？

「安心できる」「ほぼ安心と思う」が計88.3%で、不安は1割強で認められた。「とても不安」の1名は、箕面市内であった。回収率が低く母数が少ないため、産後の環境への不安感の割合は多少変動する可能性があるが、概ね落ち着いている状況と考えられる。第2子出産時は上の子どもの養育体験はあるものの、きょうだいを育てる初体験や、子育ての大変さを知っているだけに不安、その他の要因などが考えられ、2人目だから安心というものではないことが示唆された。

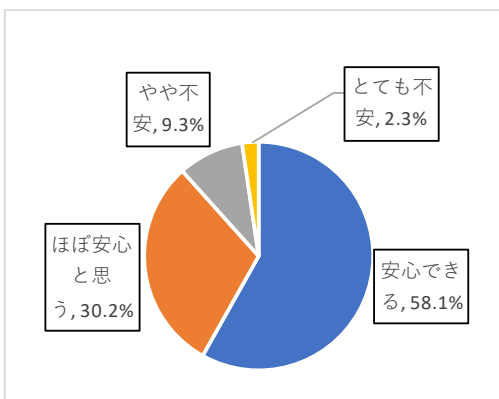


図 7. 産後の環境の安心感

表 2. 産後の環境の安心感と子どもの人数

	安心できる	ほぼ安心と思う	やや不安	とても不安	総計
1人目	11	2	2		15
2人目	9	8	1	1	19
3人目以上	5	3	1		9
総計	25	13	4	1	43

5. 退院後に過ごす家では、一緒にいる家族に何でも頼むことができるか？

9割以上が「頼める」と回答した。「頼みにくい」の3名は箕面市内であった。

表 3. 家族に頼める状況について

	回答数	%
遠慮せず頼める	30	69.8%
多少気を使うが頼める	10	23.3%
頼みにくい	3	7.0%
合計	43	100%

頼みにくい理由としては、「忙しい」3、「家事は不得手」2、「日中出かけていない」1であった。産後帰宅する家庭に人がいても頼めないという声を聞く場合があるが、今回の結果

では7割が遠慮なく頼めると回答し、全体としては深刻な状況ではないと考えられた。帰宅後に状況がどうなるかは興味のあるところである。

6. 相談相手（複数回答）

家庭で困ったことがある場合、相談できる人が「いる」41名95.4%、「いない」2名4.6%、「いない」2名は1人目・箕面市内であった。

相談相手は、夫が最も多く、次いで自分の母が多かった。「出産した産科」は約3分の1で、助産院で出産した場合相談相手とした率が高かった。日常生活において、家族に相談できることは重要である。自分の母よりも夫を選ぶ人の方が多く、前述の家族の役割で夫の存在が大きかったことと合わせて、夫婦が子育ての中心である今の時代を反映していると考えられた。核家族の中で子育てを抱え込まず、適切な応援を得ることも重要である。まだ多くないが、助産師・保健師等家族以外の支援者が退院後も相談者として一定数頼りにされていることが示された。

表 4. 子育ての相談相手と出産施設

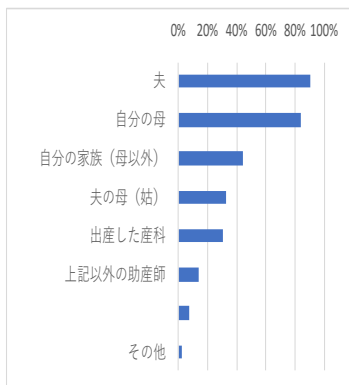


図 8. 子育ての相談相手

	回答数			%		
	病院	助産院	全体	病院	助産院	全体
夫	33	6	39	92%	100%	90.7%
自分の母	32	4	36	89%	67%	83.7%
自分の家族 (母以外)	19	1	19	53%	17%	44.2%
夫の母 (姑)	12	2	14	33%	33%	32.6%
義姉	0	1	1	0%	17%	2.3%
出産した産科	9	4	13	25%	67%	30.2%
上記以外の助産師	3	3	6	8%	50%	14.0%
保健師 (市役所・保健センター)	3	0	3	8%	0%	7.0%
n	36	6	43	100%	100%	100%

7. 赤ちゃんを育てるための、具体的なことについて

養育に関する項目として、「抱っこ」「授乳」「おむつ換え」について、不安の有無を質問した。全体に不安感はないが、「授乳」について「できる」率が少なかった。「不安」の回答者はすべてに不安で、1人目・箕面市内であった。全体として、9割近くが各項目「できる」と評価し、

問題ないとしていた。授乳については 2 割が不安と回答しており、退院後もいつでも聞ける体制作りと相談すればいいと助言することも大事と考えられた。不安であると回答した 2 名は箕面市内であった。今回の結果では、いくつかの質問への回答で不安が強く頼れないといった割合が箕面市内に多かった。これは、不安の強い回答者 2 名が同じような回答を示し、周囲に助けを求める知人がいないことを反映していた。母数が少ないため一定の傾向とは言えないが、箕面市内では訴えたい希望者が回答し、市外では特に問題のない人が入力した可能性も考えられた。

表 5.赤ちゃんを育てるため、各項目についての回答

	抱っこ		授乳		おむつ換え	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
できる	31	72.1%	24	55.8%	36	83.7%
多分できる	7	16.3%	11	25.6%	5	11.6%
少し不安である	3	7.0%	6	14.0%	2	4.7%
不安である	2	4.7%	2	4.7%	0	0.0%
合計	43	100%	43	100%	43	100%

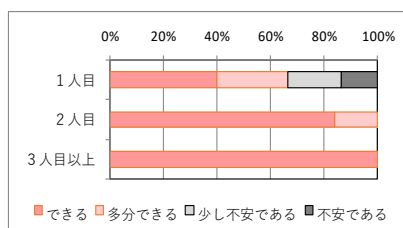


図 9. 抱っこについて

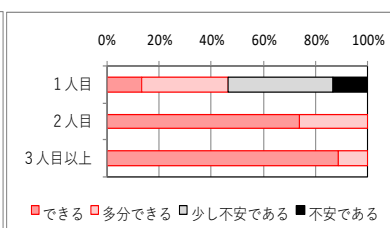


図 10.母乳やミルクを飲ませることについて

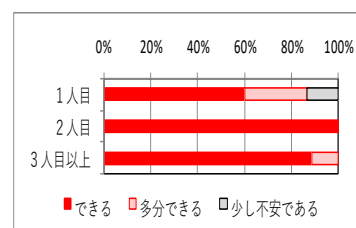


図 11.おむつ換えについて

8. 出産後に希望する支援について（複数回答）

最も多かったのは新生児訪問で、産後ケアの宿泊型は少なかった。25%が特になしを選択していたが、うち 6 名は産後自分の家に帰り、2 名が産後の環境が不安・やや不安と回答していた。

1 人目では産後ケアも新生児訪問も希望がやや多かった。

表 6. 希望する支援

	回答数	%
新生児訪問	21	35.0%
産後ケア訪問型	10	16.7%
産後ケアデイケア型	10	16.7%
産後ケア宿泊型	4	6.7%
特になし	15	25.0%
n	43	100%

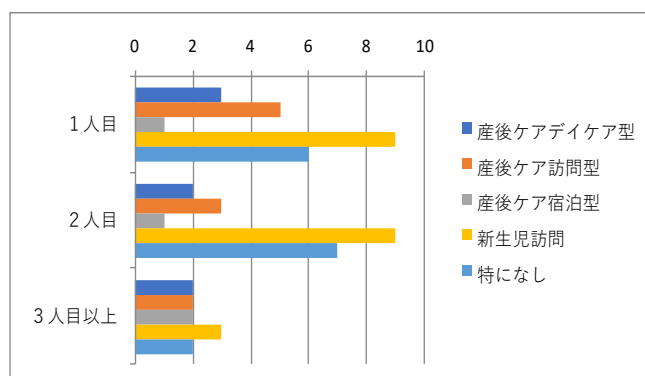


図 12.希望する支援と子どもの人数

IV. 自由記述

- *コロナ禍なので、訪問をお願いできないから、zoomなどで必要な時相談できるとよい。
- *子ども（18歳以下）医療費は無料にしてもらいたい。保育園はできるだけ兄弟が同じ園で保育してもらいたい。
- *上の子の育児が多少心配になる
- *池田市、箕面市は子育て日本1をうたっている市だけど、母子に対して（産前、産後）助成金が少ないし、産んだ後に母親や父親ケアができる場所がない。産後施設等（宿泊、時間で、整体、エステなど）体や心をいたわる施設利用料金が低い（子どもを預ける先のお金もかかる）が利用しにくい。また利用料金が高く感じたり自分の為にお金を使う事ができないのは出産費用や赤ちゃんの検診をどうしても自費負担があったり出費がかさむから利用しにくい。
- *病院の医師・助産師の皆様には大変お世話になりました。不規則な業務の中でとても親切にさせていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。・授乳について不安な気持ちがあります。授乳スケジュールについて、いろいろなパターンを教えていただける機会があると嬉しいです。

V. 今後に向けて

今回の回収率は低く母数も少なかったが、令和元年度箕面市における母子手帳受け取り時の「里帰り予定なし」は72%、2人目以後は79%という傾向と合致し、概ね評価に値すると考えて考察を加えた。外部団体のネットアンケートへの回答者という前提もあるが、データからは全体的に産後の環境が一見厳しい状況ではないと考えられた。

核家族化と情報が容易に入手できる時代のなか、大きな流れとして「自分たちの生活は、自分たちで対応する」という考え方が浸透した。今回の結果からも祖父母世代を頼るより自分たちで対応するという状況が見受けられた。産後は、母の体力回復に加えて、頻回の夜間の授乳やおむつ換えや泣くことへの対応など新生児のケアと母子関係育成など、非常に作業量が大きく丁寧な対応を要する家庭内作業があり、それを支える環境が必要である。2人目以後の家庭では、上の子どもの養育や精神的ケアも必要となる。過去の大家族多子社会では、これらのノウハウは日常生活の中に組み込まれて成立していたであろうが、それらを現代の家族制度で支えるのは困難であり、産後うつや虐待の増加の土壌となっていると考えられる。

今回の結果では、受け入れ体制や養育力に関する不安の声は少なかった。しかし「自分たちの生活は自分たちで」という意識で、父親を頼ることを当たり前として産後の生活を描く母も多いのではないだろうか。父親対象に、教新生児ケアの指導を受けていれば、安心度は増す。今回の結果から、箕面市内で出生数1,000人とした場合、第1子出産38.9%で概算すると約400人になる。第1子では自分の家に帰るのは4割160人、その中で6割が自分の家で夫を頼るとすると96人、月平均8人が指導対象という計算になり、目標人数は多くはない。2人目以後の出産では、できないことには外部のサポートを要請する仕組みと意識を持つことも課題と考えられた。

今回は回収率も低く、また実際に帰宅後の生活が始まった状態の調査ではないので、前述の父親への指導の人数は想定の外を出ない。実態を把握し、現存する支援体制を最大限活用するとともに不足している仕組み作りに取り組むことが重要と考えられた。

謝辞；ご協力いただいた箕面市立病院産婦人科・箕面レディースクリニック・アノウ助産院・プリマ助産院に心より感謝申し上げます。

箕面市民活動助成（夢の実支援金）事業の一環として行いました。

参考：アンケート用紙

<p style="text-align: center;">退院後の母子の状況に関するアンケート</p> <p>出産直後の時期からの支援を検討するため、家庭環境や赤ちゃんを育てる具体的なことや支援に関してお聞きします。以下の質問の選択肢に○を、() は記載をお願いします。</p> <p>1. 出産して産科を退院したすぐ後の環境についてお聞きします。</p> <p>1-1. 母子が過ごす場所は、どこですか？ 以下から選んでください。 ①母(自分)の実家 ②父(夫)の実家 ③自分の家 ④その他()</p> <p>1-2. 母(あなた)の身のまわりの世話や家事は、主に誰がされる予定ですか？ ①母の親 ②母のきょうだい ③父(夫) ④ヘルパー ⑤その他()</p> <p>1-3. 赤ちゃんの沐浴などの世話は主に誰がされる予定ですか？ ①母の親 ②母のきょうだい ③父(夫) ④ヘルパー ⑤その他()</p> <p>1-4. 産後の環境としては、安心して過ごせそうですか？ ① 安心できる ② ほぼ安心と思う ③ やや不安 ④ とても不安</p> <p>1-5. 退院後に過ごす家では、一緒にいる家族に何でも頼むことができますか？ ① 遠慮せず頼める ② 多少気を使うが頼める ③ 頼みにくい ④ 頼めない</p> <p>↓</p> <p>1-6. ③・④の人へ、頼みにくい・頼めない理由は？ (○はいくつでも可) ① 日中出かけていない ② 忙しい ③ 体調が良くない ④ 家事は不得手 ⑤ 育児の経験がない ⑥ 信用できない ⑦ その他()</p> <p>2. 家庭で子どもを育てるときに困ったことや心配なことがあれば、相談できる人はいますか？ ① いる ② いない</p> <p>↓</p> <p>①いると回答された場合、それはどなたですか？ (○はいくつでも可) ① 夫 ② 自分の母 ③ 夫の母(姑) ④ 自分の家族(母以外) ⑤ 出産した産科 ⑥ ⑤以外の助産師 ⑦ 保健師(市役所・保健センター) ⑦ ネット上のサイト() ⑧ その他()</p>	<p>3-2. 母乳またはミルクは安心して飲ませることができそうですか？ ① できる ② 多分できる ③ 少し不安である ④ 不安である</p> <p>3-3. 触れ合いや語りかけをしながら、おむつを換えることができそうですか？ ① できる ② 多分できる ③ 少し不安である ④ 不安である</p> <p>3-4. 出産後の支援について、希望されるものに○をつけてください。 ① 新生児訪問 ② 産後ケア宿泊型 ③ 産後ケアデイケア型 ④ 産後ケア訪問型 ⑤ その他()</p> <p>4. あなたと赤ちゃんについてお聞きします。</p> <p>4-1. 今回出産されたのは、何人目のお子さんですか？ ① 1人目 ② 2人目 ③ 3人目 ④ 4人目以上</p> <p>4-2. 今後子育てをされるお住まいは、次のうちどちらですか？ ① 箕面市内 ② 箕面市外</p> <p>4-3. 今回出産された施設は、どこですか？ ① 共立さわらぎ産婦人科 ② 箕面レディースクリニック ③ 箕面市立病院 ④ 助産院</p> <p>5. 産科や市の子育て支援についてのご意見や、子育てに関する心配なことなど、自由にご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">ご協力ありがとうございました</p>
---	---

作成：2022年1月

編集：NPO法人 はんもっく

<https://minoh-hammock.jimdo.com>

問い合わせ：E-mail:hammock_minoh24@yahoo.co.jp

